



▲エナガ スズメ目 エナガ科 全長約14cm。体重6~8g
一年中見られる=2007年2月1日木更津市



▲クモをくわえるエナガ=2012年1月21日木更津市

「やはりカメラはいらなかつたか？」
と疲れた足取りで帰りかけた時、川
辺の桜並木から「ジユリ、ジユリ、
ジユリ」とエナガの鳴き声が聞こえ
た。すると約10羽のエナガが、すつ
かり葉を落した桜の木のあちこちを
飛びまわり、時には逆さになつて、
花芽や小枝や幹のこぶを小さなくち

「いい会社ないと思ったので、『ナンラを下げずに出かけようか?』と迷つた。

カメラの重さは約2キロ。しかし、撮りたい野鳥に出会ったときに悔しい思いをするから、持っていくことにした。

公園を散歩していると「いい写真が撮れましたか?」と熟年の方にたずねられて、「いや、残念ですが全く撮れませんね」と答えた。

かずさの博物誌

エナガ

～枝先を生き生きと飛び移る～

文・写真／成田篤彦

2012.2.20

ばしでツンツン
ツンと素早く突
いている。

◎成田篤彦

園や時には水辺のヨシ原で、えさを採つてゐる姿が一年中見られる。スズメより小さく、綿に包まれてゐるような体と長い尾が特徴である。この姿が柄杓（ひしやく）の形に似ているのが、エナガ（柄長）の名の由来だ。

冬にはゴゲラ（小さなキツツキ）やシジユウカラやメジロと一緒に群れをつくるて移動し、この群れがや

晶画面を見るとくちばしはしにクモをくわえていた。これにはびつくり。エナガが葉につくアリマキを盛んについばんでいるのは目にしていたが、「葉を落した木で何を探しているのか?」といつも不思議に思っていたが、これでナゾの一つが解けた。

それでもよく見つけるものだ

カメラを持ってきてよかつたと思つ



▲水辺のヨシ原でえさを探すエナガ
=2011年2月4日袖ヶ浦市

にぎやかになる。また真っ青な冬空の下でコナラの枝先を飛び回るエナガの姿は上総の冬をよりいつそうすがすがしい気分にしてくれる。

ところで、エナガは2月頃からコケ類をクモの巣の糸でからめて袋形の巣を作り始める。外側にはウメノキゴケを、内部にはたくさんの羽毛やウサギの毛などを敷いた精巧な巣を作る。

繁殖期以外の時期は家族で群れをつくり、移動して生活し、群れ単位でなわばりをつくる。冬に同じ群れで過ごしたメンバーは、なわばり争いをほとんどしない。また、同じ群れのメンバーで独身の工ナガや子育てを失敗したつがいの工ナガなどはヘルパー（手伝い）として、卵を抱き、ヒナを育てる手助けをする。工ナガが小さくて、可愛らしいだけでなく、家族集団で協力しあつて厳しい自然を生きる賢さをもつているとは思いもよらなかつた。



▲条空のTナガ=2006年2月13日木更津市